

## 街並み、コミュニティーを壊さない駐車スペースづくり

やつお街並み研究会  
(富山県八尾町)



八尾町全景



「おわら風の盆」開催時の町



街並みを壊さないよう配慮した駐車スペースも一部見受けられる

### I. 活動の背景と目的

#### 1-1. 背景

富山県の中南部にあり、岐阜県に接する八尾町は、1年に3日間、町が一変する祭り「おわら 風の盆」が開催される町として知られています。また八尾は、おわらだけでなく曳山、和紙などの先人の築いた文化を當々と受け継いできた職人たちの伝統が息づく町でもあります。そんな伝統文化を感じさせる町には歴史の流れを偲ばせる古い町並みが残っています。

八尾では毎年10月に、町家や通りを展示会場とした美術展「坂のまちアート」が開催されます。その会期中に、出展作家と主催者メンバーである地元住民が、町の今後のあり方について話し合ってきました。それがやつお街並み研究会の始まりです。

正式には2000年に、美術展出展作家である建築家と地元の関係者をメンバーとしてスタートしましたが、昨年から、都市や街の歴史的研究を行っている法政大学陣内秀信研究室がグループに参加し、多様なメンバーで活動を行っています。

#### 1-2. 目的

グループ設立の目的は、おわらの舞台としての街並みと、生きた町としてのコミュニティーの共存を考察し、より理想的な町づくりを行うことです。伝統的なものを維持していくことと、現代の生活に即した町づくりにはいろいろな点でズレがあり、八尾でもそのような問題が目立ち始めています。

その一つに車、駐車場の問題があります。間口の狭い密集した町家型集落では、駐車スペースの設け方や道のあり方など車との関係を間違うと美しい街並みの連續が失われてしまったり、コミュニティーの崩壊にも繋がります。住民には、街並みの連續を破って車のための空間を確保するか、スペースに余裕のある他の土地へ移るかの二通りの選択肢しかありません。

今回の活動は、この「街並みと車」の問題に第三の選択肢を模索したものです。町と車の理想的な関係を検討し、町づくりの可能性を提示しました。

### II. 活動内容

#### 2-1. 町を理解するために

グループ結成当初は、八尾町に生じている諸問題に対して、解決策の提案を積極的に行うことを活動の中心に考えていましたが、提案を行うより先に八尾を理解しなければならないこと

に気づきました。そのため、都市や街の歴史的研究を行っている法政大学陣内秀信研究室のグループ参加に伴い、もう一度原点に戻り街を読み取る作業を行おうと、調査を行いました。

その具体的な内容は次の通りです。

- ・街の成り立ち（旧町）を知るために古い資料を探し、分析し、町の成り立ちを図面化する。
- ・町家を実測し、図面（平面図、断面図）を作成し、生活空間を読み取る。
- ・実測の際にヒヤリング調査を行い、住民の考え方や問題点を理解する。
- ・町家の連續写真（ファサード）を撮影し、分析しデータ化することで街並みの特徴を探る。
- ・航空写真を撮影し、鳥瞰的に町を読み取る。

このような活動によって、町を深く理解し、より身近なものになったと思います。また、この活動内容をグループメンバーだけでなく、町の人にも見ていただこうと展示を行いました。

## 2-2. 今回の具体的な活動

やつお街並み研究会は、下記の三つの活動を中心に、月1～2回の打合せと前記の研究調査を進めながら、多様な活動を行いました。八尾町に対しての有効性、実益性を重要視して、なるべく多くの住民に関心を持ってもらうことを考えながら取り組みました。

### (1) 町づくりについての講演会、町民を招いての座談会

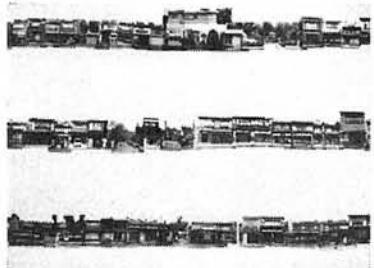
町民に問題点や方向性の認識をしてもらい、まちづくり気運を高めようと、都市史の専門家である陣内秀信氏による講演会を企画しました。八尾と同じくらいの規模のイタリアの小さな町についての講演を行い、町の今後のあり方を探りました。またやつお街並み研究会の紹介も行い、後に行う活動の予定を説明しました。

講演会の後で座談会を行い、町民と意見交換を行いました。座談会の出席者は町づくりに積極的な方が多く、グループの活動を好意的に評価していただきました。

### (2) 「坂のまちアート」において研究提案の展示、シンポジウムでの発表

「坂のまちアート」は八尾住民、作家、観光客が一体となって行われるイベントです。そこで展示は町民、関係者に直接アピールすることとなり、町について語り合うきっかけになったと捉えています。

提案内容としては可能性のあるアイディアをなるべく多く提



町屋の連續写真



陣内秀信氏による講演会



町屋を展示会場とした「坂のまちアート」

示し、解決策を限定しない方法としました。これは展示を見た町民の意見をまとめて、もう一度検討しようと考えたからです。

### (3) 研究、提案のパンフレットの作成

(2)で行った研究提案の展示内容を再度検討し、編集してパンフレットにしました。1年間の活動のまとめとして、地元関係者に配布しました。このパンフレットの内容については今後も話し合い、考察していく予定です。

## III. 活動の効果及び今後の課題

### 3-1. 活動の効果

八尾の住民はすごく保守的な人と活性化を計ろうとする積極的な人の両方がいます。後者からは非常に反響があり、好意的な評価を得ました。提案したアイディアを具体化したいという声も挙がりました。

私達の活動は提案、アイディアを示しただけで、具体的には何もできていません。将来、私達が示した内容が町につくられ、良くなっていくことを願っています。

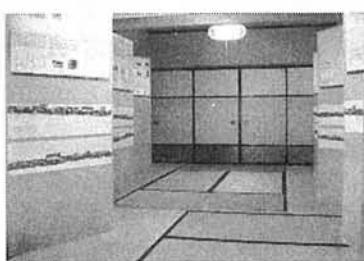
### 3-2. 現在の問題点

やつお街並み研究会は、なるべく開かれた会を目指したため、メンバーが不確定でグループの枠組みがはっきりしないことが問題としてあげられます。また、多様なメンバーがいるため、とりまとめに苦労することがあります。しかし、活動参加の自由なところなどは、情報が集まりやすく、良い点でもあると考えています。

### 3-3. 今後の課題

現在、八尾町では個別排水（共同浄化槽）から下水道への排水方式の切替え工事が行われています。この工事の際に町家の建て替えが行われることが多く、急速な街並みの変化も予想されます。やつお街並み研究会では、この変化が街並みの崩壊にならないように、建て替えの指針となる提案を行いたいと考えています。

また、八尾町ではセカンドハウスとして町家の使用が多く、空き家が目立ってきています。この空き家問題にも取り組んでいく予定です。



「坂のまちアート」にて研究提案を提示



町屋調査



パンフレット作成作業

## <団体活動データ>

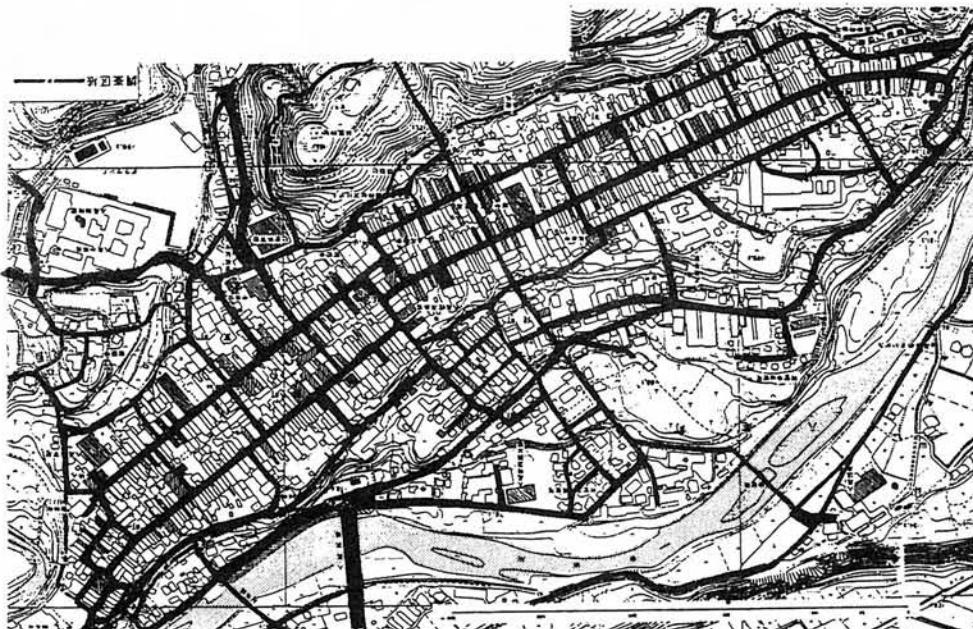
### ■やつお街並み研究会

活動テーマ	街並み、コミュニティを壊さない駐車スペースづくり
活動目的	「おわら風の盆」で有名な八尾町。その舞台として古い歴史のある街並みと、生きた街としてのコミュニティ共存の方法を議論、提案することを目的としている。「おわら風の盆」以外の八尾の魅力づくりを目指している。
設立年月	1999年9月
代表者名	山下隆司
活動地域	富山県八尾町
メンバー	10名 建築家、地域情報紙出版関係、デザイナー、会社員など

#### ●団体設立の経緯

八尾町では毎年、町家や通りを展示会場とした美術展「坂のまちアート」が開催される。そのアート展に出展した東京在住の建築家と、主催者メンバーである地元住民が、会期中に今後の町のあり方について話し合ってきた。そして同団体の活動が始まった。

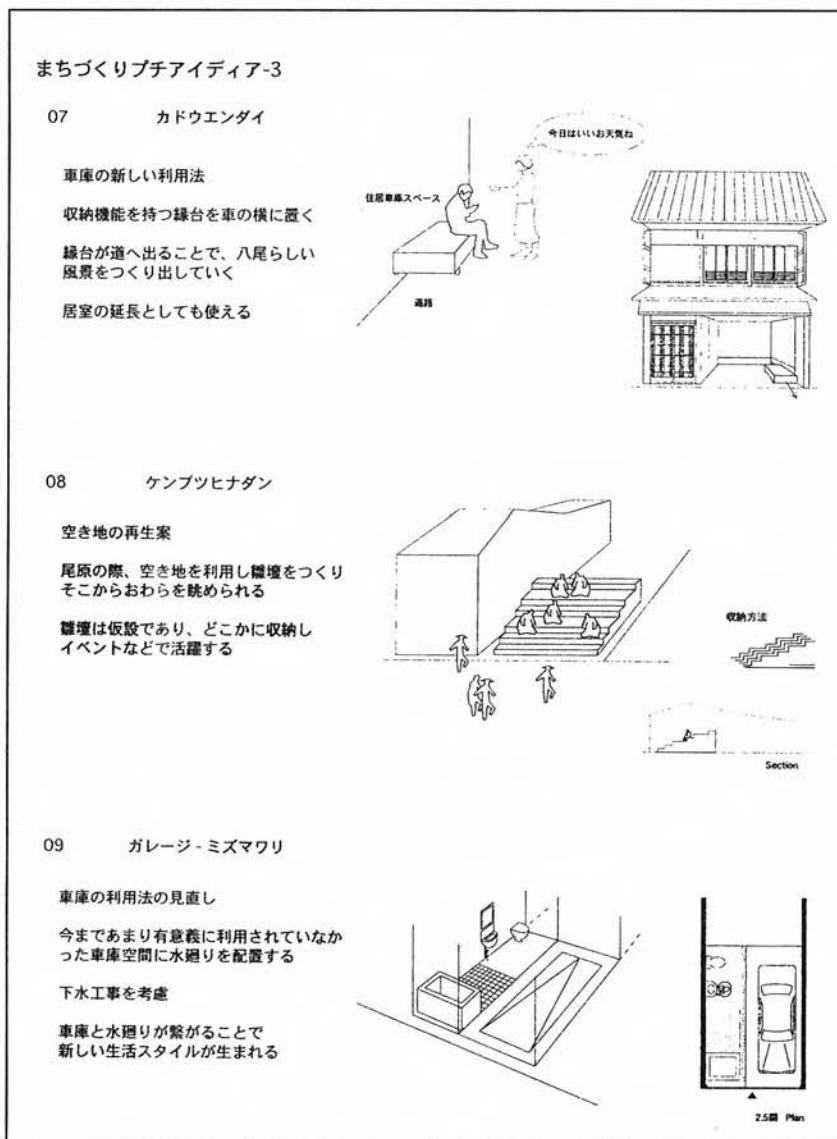
#### 〈地域図〉



## ●これまでの活動

間口の狭い町家に「駐車スペース」の問題はつきものであり、街並みの連續を破って車のための空間を確保するか、スペースに余裕のある他の土地へ移るかの選択がせまられている。これまで「街並みと駐車スペース」に焦点をあてて取り組んできた。

2001年 八尾町諏訪町と東新町の街並みの現状把握や各住戸の車庫形態の分類、空きスペースの調査を行い、まちづくりプチアイディアとして住民に提案した。



2001年「まちづくりプリティアの提案」から一部抜粋

## ●助成対象活動

八尾町の町に成り立ちや町家の研究、住人へのヒアリングを実施し、まちづくりの提案を行った。

### ・講演会の開催

多くの住民に問題点や活動を理解してもらい、まちづくりの気運を高めるために、都市史の専門家を招いて講演会を開催。

### ・調査とヒアリング

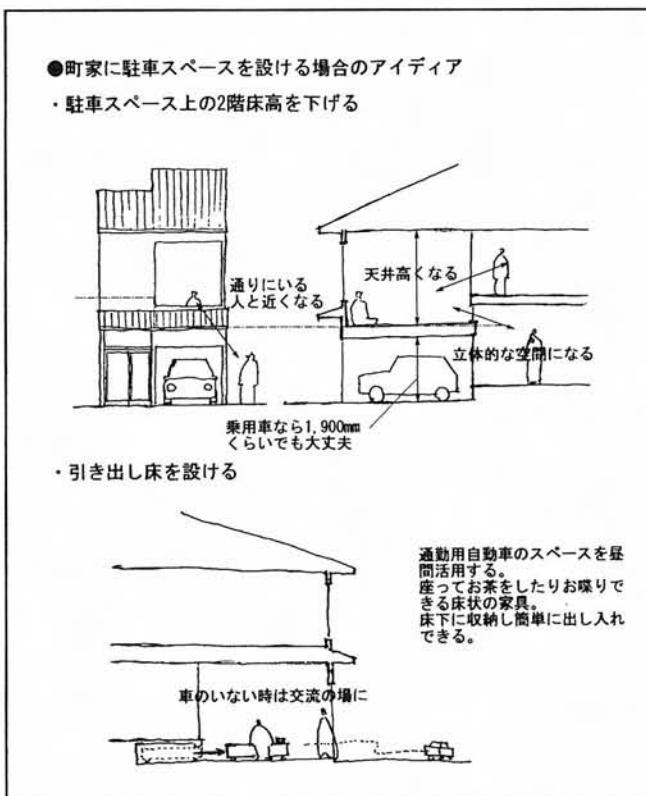
町の成り立ちを調べ図面化。町家の実測と住人へのヒアリングを行い、住民の意向などを整理。

### ・まちづくりの提案

調査結果をもとに、街並みに合う駐車スペースづくりなどを展示にて提案。解決策を提示するのではなく、複数のアイディアを提案することで、町について語り合うきっかけづくりとした。

### ・パンフレットの作成

展示で提案した内容をパンフレットにまとめ、地元関係者に配布。



2002年度「まちづくりの提案」から一部抜粋

### ●これからの活動

ひきつづき「駐車スペース」と「空き家」の問題に取り組む。当初の計画では、諸問題について積極的な解決策の提案を考えていたが、より町の現状にあった提案を行うために、町並みを読み取る作業や町の成り立ちを調べる活動をベースに活動していく。町並みの調査においては、都市や街の歴史的研究を行っている大学と連携して行う。